

平成27年度第2回 横浜美術館指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 平成 27年 7月 22 日 (金) 10時 00分 ~ 12時50分

2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム

3 出席者 丸山委員、西田委員、村井委員、吉本委員

4 欠席者 酒井委員

5 傍聴者 なし

6 議事内容

議題	<p>1 定足数の確認</p> <p>2 委員会の公開・非公開について</p> <p>3 平成26年度指定管理者事業の報告及び評価について</p> <p>4 第2期中期3か年計画について</p> <p>5 その他</p>
委員意見等	<p>1 定足数の確認 委員数5名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 委員会の公開・非公開について (審議結果) 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>3 平成26年度指定管理者事業の報告及び評価について ・平成26年度指定管理者事業について指定管理者から報告 (質疑) (委員) ・収支決算額の支出で、事業費が予算から削減されているが、削減した内容は何か。 (指定管理者) ・ホイッスラー展の入場者数が少なかったことによる共催メディアへの負担金の減、当初計画していた事業の取り止めによる減である。 (委員) ・ヨコハマトリエンナーレ2014の鑑賞講座の子どもなどの参加者の反応はどうだったか。 (指定管理者) ・ヨコハマトリエンナーレ2014では、中高生が小学生をガイドすることを行ったが、その中で高校生が美大を目指すようになるなど、美術を通して意欲的にものごとに取り組む様子が見て取れ、教育普及事業として大きな成果があった。中高生が小学生に教えることで、中高生自身が自分の考えでアウトプットするようになり、美術館として良い機会を提供できたと考える。 また、学校プログラムでも市内の中学校・高校と連携が深まった。学校教育事業と美術館の展覧会などの連携が進んでいる。 (委員) ・非常に良い取組である。ヨコハマトリエンナーレ2014以外の事業でも継続的に実施するのか。</p>

(指定管理者)

・業務の負担は大きいですが、毎年何らかの事業を行っていきたいと考えている。今年度は蔡國強展で行っている。美術に関心がある学生同士の繋がりも深化していくと考える。

(委員)

・そのような取組の成果は、今後の評価の中でも伝えてほしい。教育は横浜美術館の使命の1つである。参加者がどのように感じているかは、捉えるのが難しいが、そこを今後も大事にしてほしい。

(委員)

・入場者数が目標に達成していないことについて、ヨコハマトリエナーレ2014は目標18万人となっているが、良好な鑑賞環境として考えた場合に、18万人の入場者は適正なのか。また、目標入場者数はどのように設定しているのか。前回の横浜トリエンナーレの入場者数は何人だったか。

(指定管理者)

・目標入場者数は美術館と他会場を含む数字である。前回は18万人であり、今回の目標となっている。

(委員)

・ホイッスラー展の目標の23万人の設定はどうか。

(指定管理者)

・共同主催の相手側との協議で目標を設定した。

(委員)

・23万人だと1日2,500人程度の入場になるが、その場合、会場は混み合っているか。

(指定管理者)

・混み合っているが、プーシキン展では30万人の入場があった。23万人は泰西名画の展覧会としては、比較的、鑑賞環境は確保できる。

(委員)

・今回は目標に達しなかったことも踏まえて、次回目標入場者数の設定は様々な要素を考慮したほうが良い。

(事務局)

・ご指摘のように目標入場者数の設定は、非常に難しい。今までの展覧会や収支を目安として、展覧会ごとの特性をふまえ、適正な入場者数の設定を行っていく。

(指定管理者)

・横浜トリエンナーレは、会場も内容も毎回異なるため、各回の比較が難しい。目標と実績が乖離しないよう精査していく。

(委員)

・ホイッスラー展では、企画者やメディアとの意思疎通がうまくできていなかった印象がある。企画を行うにあたっての内部の体制も工夫することが必要と考える。ヨコハマトリエナーレ2014では、ディレクターが子ども向けのガイドブックを作成した取組を評価する。

(指定管理者)

・ホイッスラー展ではご指摘のとおり感じている。今後の展覧会では、展覧会の企画段階に関われるかどうかや出資比率の大小などで主張を通していくのが難しい場合もあるが、反省を踏まえ美術館として主張すべきことを主張していきたい。

(委員)

・入場者数が目標に達することも経営的な視点では大事だが、質の高い展覧会を実施することが美術館の使命であるから、大きな視点で、横浜美術館でホイッスラー展やヨコハマトリエンナーレ2014を実施する意義なども踏まえ評価を行いたいと思う。

・シンガポール美術館での展覧会では、企画内容について相手側から希望があったのか。

(指定管理者)

・ジャングル展の交換展として、当初シンガポール美術館からは写真のコレクションを出して欲しいと希望があった。しかし、展示条件が合わず、映像作品となった。

(委員)

・今後もシンガポール美術館と連携することはあるか。

(指定管理者)

・シンガポール美術館は、シンガポールビエンナーレの会場になっていることもあり、横浜美術館と状況が似ている。今後、国際展を行うにあたって、学芸員の交流もできるとよいと考えている。

(委員)

・「高齢者向け割引サービスを来年度から開始する準備を進め、心地よく過ごしていただける美術館になるよう努めました」と記載があるが、具体的な内容は何か。

(指定管理者)

・現在は割引サービスを予定しているが、今後アクセシビリティの向上の取組も考えている。

4 第2期中期3か年計画について

・第2期中期3か年計画について事務局及び指定管理者から説明

(質疑)

(委員)

・「海外来館者の把握」は具体的にどのように取り組むか。コストや手間が多く掛からないほうが良いと考える。

(指定管理者)

・一定期間の来館者の調査、ヒアリング調査などを検討している。コストも考慮し、他の実施例などを参考にいくつかの方法を検討していく。

(委員)

・美術館のチケット窓口での調査はどうか。市民協働で行うのであれば、横浜市国際交流協会との連携や、またタブレット端末などの機器を使うのも有効である。

(指定管理者)

・窓口で多言語のペーパーなどを用意しておくことを考えている。アジア系の来館者をどのように把握するかが課題である。機器の試用のチャンスがあれば導入していきたい。

(委員)

・市として説明した内容は、指定管理者とも合意の上なのか。以前と記載の順などが違う。

(事務局)

・今回の記載は、3か年の計画書を網羅しており、柱となる施策は変わらない。

(指定管理者)

・横浜美術館としては、方向性として掲げるコレクションの形成について、原資となる基金が厳しい状況であると考えている。

(事務局)

・コレクションの形成については、市で原資である基金の増へ向けて予算措置等を考えて行き、その活用について指定管理者から提案をしてもらうという考えである。

(委員)

・政策目標は何年を想定してのものか。今回の内容は、市として考える横浜美術館が目指す方向性か。

(事務局)

・政策目標は10年。今回の内容は、市として考える横浜美術館が今後3年間に行うべき施策であり、前回の説明の際のご指摘を踏まえて、今回改めて整理した内容である。

(委員)

・掲げている政策目標は、横浜美術館で展覧会などを実施することで達成する効果である。3か年計画は、そのための施策となっているので、目標と手段は明確に分けて考えた方が良い。

・政策目標の観点から、定量的な数字のみでなく、定性的な評価をするのが良いと考える。

(事務局)

・目標に対する数値があり、それを達成することで効果も生まれることが望ましいが、数値だけでは測れないこともあるので、難しいと感じている。

(委員)

・掲げている政策目標の方向性へ向けて取り組んでいることは良い。それをきちんと評価できるようにして欲しい。

5 その他

(委員)

・修繕計画はどのように進んでいるか。

(事務局)

・前回、大規模修繕が必要であることを説明したが、それに向けて、時期と内容について検討を進めている。第2期中期の3年の中では、休館する予定ではない。

(委員)

・美術館の企画には長期を要するため、これを考慮し、早めの計画や予算の対応をして欲しい。

議事は以上